

平成30年度「学生発未来を変える挑戦」プロジェクト

# 大学生の本音でとことん喫煙対策

青森県立保健大学  
ヘルスリテラシー向上部

# 【青森県の現状】

## 「健康あおもり21（第2次）」

- ・全体課題

「早世の減少と健康寿命の延伸により全国との健康格差の縮小をめざす」

- ・重点課題

喫煙防止対策

→県民のヘルスリテラシー（健やか力）の向上



## 【表1】喫煙率

	男女合計		男性		女性	
1	北海道	24.7	佐賀	37.5	北海道	16.1
2	<b>青森</b>	<b>23.8</b>	<b>青森</b>	<b>36.5</b>	<b>青森</b>	<b>12.2</b>
3	岩手	22.6	岩手	36.2	群馬	10.9
4	福島	22.4	北海道	34.6	神奈川	10.9
5	群馬	22.0	福島	34.4	千葉	10.8

ワースト2位

## 【表2】悪性新生物の死亡率

	男性		女性	
1	<b>青森</b>	<b>201.6</b>	<b>青森</b>	<b>103.0</b>
2	秋田	185.8	北海道	99.5
3	鳥取	185.8	秋田	97.7
4	北海道	184.6	福岡	93.7
5	大坂	181.3	大坂	93.0

喫煙が、肺がんをはじめとする様々ながんの原因になることが科学的に証明されているが...

ワースト1位



青少年期に喫煙を開始すると...

- **がん**や**虚血性心疾患**の危険性UP
- **肺がん**死亡率 非喫煙者の**5.5倍**
- **ニコチン**依存度が高い



青森県の成人の喫煙率の高さや、肺がんをはじめとするがん死亡の多さを考慮し、**青少年に喫煙を開始させないような取り組み**が必要である



## 【文献検討】

「青年層の喫煙防止対策にかかわる自己点検健康度意識調査  
～青森県中南地域の大学生及び短大生を対象として～」

(吉岡, 2017)

大学生及び短大生の喫煙率 3.8%

→若者の喫煙率が著しく低下している

若者のタバコ離れが促進している

成人における喫煙率の高さからすると、**大学生の喫煙者はもっと多いことが予想**され、アンケート調査等における限界であることも考えられる。



中学生や高校生(未成年)の喫煙の動機は「好奇心」  
や「何となく」が多い

(青少年とタバコ等に関する調査研究報告書,2001)

大学生の喫煙行動に関しては友人が大きく影響

(尾崎,2005;栗岡,2007)



同年代の大学生が、同じ目線でインタビューを行うこ  
とで、本音で喫煙に関する意識や効果的な禁煙対策  
について検討していくことにつながると考えられる。



## 【研究目的・意義】

大学生らが本音で語った内容について、大学生が現在から未来の喫煙対策について検討し、提言する。

大学生の本音を聞き、大学生が対策について考えることで、広く**県内の大学生に受け入れられる施策**に結びつき、ひいては**青森県の喫煙率の低減とそれによる生活習慣病発症を減少することにつながる可能性**があると考えられる。



# 【調査方法・実施内容】

## (1) 基礎調査

大学生を対象とした調査の先行研究のレビューやインタビュー調査に関する技術的な事項について、フィールド実証の前に実施した。調査メンバーの友人らを通じて、調査時期、対象者、場所等について確認を行った。

## (2) フィールド調査

青森県内の4年制大学8校のオープンキャンパス、大学祭、先方の都合の良い日時において調査メンバーが各大学を訪問し実施した。1回の実施において、1名に対して10～15分程度のインタビューを行った。1大学に4人前後の調査メンバーを配置し、2人ペアとなりインタビューを実施した。インタビュー内容は記録をとりながらICレコーダーに録音し、後日、テキストにした。

## (3) インタビューガイドの内容

共通項目として、大学、学科、学年、性別、年齢、希望する職業、家族との同居、非喫煙者と喫煙者に対してそれぞれタバコと飲酒に関する約20項目の質問をした。





# 【調査結果・考察】

## 調査人数

非喫煙者48人、喫煙者12人に調査を実施

うち、非喫煙者40人、喫煙者11人が分析対象

分析対象者の平均年齢 19.9歳



## 周囲の喫煙

【表4】より、8割を超える対象者で周囲に喫煙者がいる。

家族では**父親、兄、祖父**と男性の喫煙者が多かった。家族以外では、友人、先輩、部活の人、バイトの人等、学生生活において**学内外で喫煙者が周囲にいる**。

## 非喫煙者の意見

【表11】より、**タバコに嫌な印象**を持っている人、【表13】より、**受動喫煙を気にする**人が過半数である。



## 年齢確認時の行動

【表17】は、飲酒に関する質問であったが、タバコ購入時に関しても、**年齢確認をされたら買えない**ような同様の結果となることが予測される。

若年者の喫煙は周囲の環境、特に家族や友人の喫煙行動に影響を受けやすい。

(尾崎,2005;遠藤,2007)

周囲の喫煙や  
受動喫煙に対して  
環境づくりが必要！



## 喫煙者について

【表5】～【表7】より、未成年での喫煙が目立つ。初回喫煙の年齢から、**家族の影響**が大きいと考えられる。**大学入学後は友人や先輩、酒席への参加など周囲の環境が影響**していると考えられる。

幼いころ、そして、  
大学入学後にも  
**教育が必要！**



## 好きな人と喫煙行動

【表19】【表20】より、非喫煙者の約半数が、好きな人に対して禁煙の説得ができると回答し、一方で、喫煙者の過半数が好きな人に言われたら禁煙すると回答している。

家族よりも友人、恋人の喫煙により大きく影響を受けていることが示唆された。

(栗岡,2007)

**愛のある  
喫煙対策が必要！**



## 喫煙対策について

【表24】では、タバコを他のものに置き換える、他の趣味やストレス解消法を見つけるという意見がある。

タバコ以外の  
楽しみが必要！



# 【政策提案】

## 対象者の意見

※資料に記載した集計結果や記載しきれなかった対象者の意見、青森県の現状を踏まえたもの

- ・幼いころからの教育にて、タバコの健康被害やマナーを伝える
- ・分煙をする
- ・施設や店内等での灰皿の撤去
- ・年齢確認を厳しくする
- ・タバコの値上げをする
- ・好きな人を説得できる、好きな人に言われたらやめる
- ・運動イベントの実施
- ・遊ぶ場所、タバコ以外の趣味で置き換える



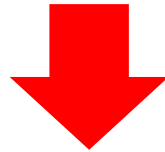
# 対象者の意見や結果から気になったこと

- ・電子タバコは無害という誤った知識
- ・喫煙開始のきっかけで先輩や友人等同世代からの誘いの多さ
- ・周囲の環境によるタバコへの慣れ
- ・実験や授業で黒い肺をみた時タバコを吸わなくて良かったと思った
- ・誰かがではなく県全体で解決していく
- ・喫煙者同士で仲良くなる





大学で喫煙開始をいかにして防ぐかが課題の一つである。敷地内禁煙など吸いにくい環境を作ると共に、タバコについての正確な情報を計画的、継続的に学生に提供する必要がある。  
(栗岡,2007)



一般常識や医療系専門職を目指す保健大生としての視点を踏まえ、対象者の意見を活かし、実現してほしい対策を提案する。



若年での喫煙が及ぼす悪影響の予防や、研究意義にもある、より県内の大学生に受け入れられる施策を実現するため、今回は若年層を喫煙対策の中心ターゲットとしていく。

現在の若年層に働きかけることで、将来の喫煙率低下や、現在の若年層が親世代になった時の子ども達の喫煙対策にもつながることが考えられる。

教育

環境整備

他の楽しみ

愛



# 教育

## 【喫煙を始めさせない取り組み】

☆ 飲酒・喫煙についての健康教室を大学入学時にも実施

☆ この健康教室を新入生に対して、学内の上級生が実施



# 環境整備

## 【煙に巻き込まない・巻き込まれない】

☆ 県内の施設や飲食店等に対し、禁煙・分煙、灰皿を置いておかない等呼びかけを強化

☆ アルコール提供店やたばこ販売店での年齢確認

強化の呼びかけ



# 他の楽しみ

## 【楽しいはみんなが創る】

☆ 県内各市町村の既存の施設や公園、駅前等の場所を利用し、健康や運動のイベントを開催

☆ 喫煙所スペースを、簡単な運動器具やダイエット器具を設置



# 愛

## 【みんなで取り組む喫煙対策】

☆ 周囲をたばこに誘わない愛情、周囲にたばこで迷惑をかけない愛情、大切な人の将来や健康のために「たばこをやめて」と伝える愛情



## 【参考文献】

- 1) 遠藤明, 加濃正人, 吉井千春, ほか: 小学校高学年生の喫煙に対する認識と禁煙教育の効果, 禁煙会誌 2007, 2, 10-12.
- 2) 栗岡成人, 稲垣幸司, 吉井千春, 加濃正人: 加濃式社会的ニコチン依存度調査票による女子学生のタバコに対する意識調査(2006年度), 日本禁煙学会誌 2007, 2, 5, 62-69.
- 3) 尾崎米厚: 環境と子どもの喫煙習慣, 治療 2005, 87, 1965-1973.
- 4) 尾崎米厚, 箕輪眞澄: 若年における喫煙開始がもたらす悪影響, 2005, J. Natl. Inst. Public Health, 54 (4), 262-277
- 5) 総務庁青少年対策本部: 青少年とタバコ等に関する調査研究報告書, 2011



# 謝辞

今回、調査に協力していただいた大学や学生の皆様、ならびに、このような研究の機会をくださった青森県企画政策部企画調整課の皆様に深く感謝申し上げます。

